

2022 年度アフリカ PT  
TICAD8 ミッション報告書

2022 年 8 月 24 日 (水) ~ 9 月 1 日 (木)

チュニジア・チュニス、モロッコ・カサブランカ、ラバト

2022 年 10 月

公益社団法人 経済同友会

## 目次

1.	はじめに.....	1
2.	ミッション派遣の背景と目的.....	2
3.	TICAD8 概要.....	3
4.	面談概要.....	6
5.	まとめ.....	12
6.	ミッション概要資料.....	13

## 1. はじめに

アフリカ PT では、2020 年度より第 8 回アフリカ開発会議（TICAD8）を一つのターゲットとして日本の対アフリカビジネスの活性化を目的に活動してきた。その中で、日本の対アフリカへの直接投資残高が 2013 年以降半減していることに着目、日本の対アフリカ投資の呼び水となるエコシステムの構築が必要との考えに至り、2021 年 10 月に、提言「アフリカ投資機構（仮称）の設立を～開発投資の加速に向けた更なる官民連携強化の道筋～」を公表した。

以後、「アフリカ投資機構（仮称）」の構想（以下、「本構想」）について関係者と協議を重ね、TICAD8 に先立って、本年 7 月「アフリカ投資機構設立準備委員会」の設置を公表した。2022 年内に運用会社を設立し、来春にはファンドを立ち上げて資金運用を開始、2024 年春には 100～150 億円規模の資金運用を目指している。

TICAD8 では、本会合やビジネスフォーラムにおいて、アフリカ諸国の首脳・閣僚、国際機関幹部、企業経営者に対して、岩井睦雄アフリカ PT 委員長（日本たばこ産業 取締役会長）と渋澤健同副委員長（シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役）が本構想について説明する機会を得た。

今回のミッションにおける成果は三つあると考えている。一つ目は、TICAD8 の全体会合 1 において、岸田総理が「日本経済界による、100 億円超の『スタートアップ向け投資ファンド』の計画を政府としても歓迎」と言及したことである。

二つ目は、最終成果文書である「TICAD8 チュニス宣言」において、「我々は、対アフリカ投資を促進するための新たな基金の創設に向けた取組みに謝意を表す」、「様々な社会的課題の解決とイノベーションに適したエコシステムの構築に資する環境整備のためのインパクト投資の加速を奨励する」と記述され、本構想が盛り込まれたことである。

三つ目は、国連開発計画（UNDP）、アフリカ連合開発庁（AUDA-NEPAD）、アフリカ開発銀行（AfDB）などの国際機関や現地経済団体の幹部との面談において本構想について説明し、本会が主導するインパクトファンド設立について歓迎及び協力の旨の意向が表明された点である。特に、アフリカ開発銀行との面談では、本構想についての今後の協力について、引き続き協議することが確認されている。

TICAD8 ミッションは、アフリカ現地のファンドの活動状況やスタートアップ企業の現状を把握し、本構想を前進させるために、非常に有益であったと感じる。以下、ミッション概要について報告する。

## 2. ミッション派遣の背景と目的

### (1) ミッション概要

経済同友会は、8月27日、28日に開催された第8回アフリカ開発会議(TICAD8)に参加するため、2022年8月24日(水)～9月1日(木)の日程で、開催国チュニジアのチュニスと北アフリカモロッコのカサブランカ、ラバトにミッションを派遣した。

アフリカPTでは、TICAD8に先立ち、アフリカ投資機構設立準備委員会を発足させ、昨年10月に公表した提言「アフリカ投資機構(仮称)の設立を～開発投資の加速に向けた更なる官民連携強化の道筋～」の具体化を進めている。

今回のミッションでは、TICAD8において、「アフリカ投資機構」の構想について説明すること、そして現地経済団体、国連開発計画(UNDP)、アフリカ連合開発庁(AUDA-NEPAD)、アフリカ開発銀行などの国際機関、現地ファンドとの面談を実施し、アフリカのビジネスの現状を把握することを主目的とした。

また、モロッコでは、現地ファンドやJICA、日本大使館を訪問し、現地のスタートアップ企業の概況や本構想について意見交換を行った。

### (2) アフリカ開発会議(TICAD)

TICAD(TOKYO INTERNATIONAL CONFERENCE ON AFRICAN DEVELOPMENT)は、1993年に日本政府が発足した多国間会議であり、アフリカに対する主要ドナー国の関心が低下する中、改めて国際社会によるアフリカ支援の重要性を発信する先駆的な役割を果たしてきた。

以降、2013年に横浜で開催されたTICAD5まで、5年に一度日本で同会議が開催され、各国首脳・閣僚の出席を得て発展を重ねてきた。その後、開催頻度が3年おきに短縮され、2016年のTICAD6は、初めてアフリカの地、ケニア・ナイロビにて開催になった。また、「開発援助から貿易・投資へ」というアフリカの期待に応えるため、77の企業・大学等のトップが団員として参加した。2019年のTICAD7は、横浜で開催され、企業経営者がアフリカ開発に関わる公式なパートナーとして位置付けられ、公式セッションの一つとして、日・アフリカ双方の企業経営者と各国首脳との直接対話が設けられた。

今回のTICAD8は、二度目のアフリカの地での開催となった。TICAD8はコロナ禍での開催となったことで参加者が限定されたが、日本の経済界から約50社100名が唯一の現地におけるサイドイベントである「ビジネスフォーラム」に参加した。

### 3. TICAD8 概要

(1) 日 程 : 2022 年 8 月 27 日 (土)、28 日 (日)

(2) 開催地 : チュニジア・チュニス

(3) 主 催 : 日本政府、国連、国連開発計画 (UNDP)、世界銀行、  
アフリカ連合委員会 (AUC)

(4) 出席者 : アフリカ 48 か国から 20 名の首脳級が参加。

岸田文雄 総理大臣はオンラインで参加。林芳正 外務大臣 (総理特使) がサイド・チュニジア大統領及びサル・セネガル大統領 (AU 議長) とともに対面参加。

経済産業省から中谷真一副大臣が参加し、日本・アフリカ連合友好議員連盟より牧原秀樹 事務局長、鈴木貴子 前外務副大臣他が参加。

ビジネスフォーラム (現地サイドイベント) には、日本企業約 100 名、アフリカ企業約 100 名、アフリカ経済閣僚、開発金融機関、日本の公的機関等からの約 100 名とあわせ計約 300 名が参加。

#### (5) プログラム概要

##### <全体会合>

8 月 27 日 (土) 1 日目	
09:20-10:35	開会式
10:35-12:35	全体会合 1 (経済)
8 月 28 日 (日) 2 日目	
09:00-09:30	野口英世アフリカ賞授賞式
09:30-11:00	全体会合 2 (社会)
11:00-12:30	全体会合 3 (平和と安定)
12:30-13:00	閉会式

## <ビジネスフォーラム>

8月27日（土）1日目	
15:00-	<p>歓迎挨拶：佐々木信彦（日本貿易振興機構 理事長）</p> <p>開会挨拶：岸田文雄（日本国総理）ビデオメッセージ</p> <p>基調講演：サイード・チュニジア大統領 サル・セネガル大統領（AU 議長）</p>
15:20-	MOU セレモニー
16:00-	休憩
16:10-	<p>来賓挨拶</p> <p>・岩井睦雄 アフリカ PT 委員長（日本たばこ産業 取締役会長） 登壇</p>
17:10-	<p>日本企業からのメッセージ</p> <p>・奥村洋治 フジタ 取締役社長 登壇</p>
17:40-	閉会挨拶
8月28日（日）2日目	
09:00-	開会挨拶：
09:05-	JICA・AfDB セッション
09:20-	<p>テーマ別セッション1：Transform Africa through Innovation</p> <p>・渋澤健 アフリカ PT 副委員長（シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役）登壇</p>
10:35-	休憩
10:50-	テーマ別セッション2：Africa's green growth opportunity
12:05	休憩
13:30-	<p>パネルディスカッション:Forging a better future, forging stronger partnerships</p> <p>・大島秀夫 日本信号 取締役常務 登壇</p>
15:00-	休憩
15:15-	テーマ別セッション3：Industrialization and economic diversification in Africa
16:30-	休憩
16:45-	テーマ別セッション4：Sustainable finance in Africa
18:00-	閉会挨拶

## (6) TICAD8 全体会合概要

全体会合において岸田総理は、「日本は、アフリカと『共に成長するパートナー』として、『成長と分配の好循環』を通じ、アフリカ自身が目指す強靱なアフリカを実現していく」、「『人』に注目した日本らしいアプローチの下、「人への投資」、「成長の質」を重視、今後3年間で官民総額300億ドル規模の資金を投入し、以下の7つの取組みを行うことを表明した。

- ① **グリーン投資**：「アフリカ・グリーン成長イニシアティブ」を立ち上げ、官民合わせて40億ドルを投資。
- ② **投資促進**：活力ある日本とアフリカの若者が取り組むスタートアップに焦点。日本経済界による、100億円超の「スタートアップ向け投資ファンド」の計画を政府としても歓迎。
- ③ **開発金融**：人々の生活を向上させるため、最大約50億ドルのアフリカ開発銀行との協調融資を実施。債務健全化を進める国を支援するための特別枠最大10億ドルを新たに創設。
- ④ **保健・公衆衛生**：人間の安全保障の理念に立脚し、感染症対策等支援のためグローバル・ファンドへの最大10.8億ドルの新規拠出。
- ⑤ **人材育成**：アフリカの未来を支える産業、保健・医療、教育、農業、司法・行政等の分野の30万人の人材育成。
- ⑥ **地域の安定化**：複雑化する地域情勢へ対応するため、「アフリカの角」<sup>1</sup>特使を任命し、迅速な対応に向けた体制を強化。
- ⑦ **食料安全保障**：人々の生活を守る強靱な社会を構築するため、アフリカ開発銀行との3億ドルの協調融資、20万人の農業分野の人材育成。

コロナ禍での開催となり、本会合への参加は限られていたが、大橋徹二 経団連サブサハラ地域委員会委員長と本会の岩井睦雄 アフリカ PT 委員長が、全体会合1（経済）において、発言の機会を得ている。その中で、岩井委員長は、本会のアフリカ投資機構の構想について説明を行った。

---

<sup>1</sup> 戦略的に重要とされるアフリカ東部の半島周辺の地域。日本政府は、司法や行政分野の制度構築などを通じて民主主義の定着に向けた取り組みを後押しするため、担当の特使を任命する。

## (7) TICAD8 ビジネスフォーラム

27日、28日の2日間にわたって開催されたビジネスフォーラムには、日本企業約100名、アフリカ企業約100名、アフリカ経済閣僚、開発金融機関、日本の公的機関等の計約300名が参加した。

一日目には、岩井睦雄アフリカPT委員長（日本たばこ産業 会長）と奥村洋治フジタ 取締役社長が登壇、二日目のテーマ別セッション1「Transform Africa through innovation」に、洪澤健アフリカPT副委員長（シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役）がそれぞれ登壇した。

### 4. 面談概要

#### (1) JICA チュニジア事務所

面談者：上野 修平	JICA チュニジア事務所長
松永 秀樹	JICA 中東・欧州部部長
徳田 真人	JICA アフリカ部 計画・TICAD 推進課企画役
辻井 亮	JICA チュニジア事務所 事業総括

#### 概要

- ・ チュニジアの強みは二つ。一つは、地理的な優位性。ヨーロッパに近く、アラブの国でもあり、また東南部アフリカ市場共同体（COMESA）の一員でもある。もう一つは人材であり、相対的にモロッコよりもアカデミックレベルは高い。ただし、海外投資が進んでいないため、若者を中心に失業率が高い。
- ・ 人口が少なく、国内市場も限定的であるため、最初から欧州展開を考えるスタートアップが多い。
- ・ チュニジアもモロッコも中国の進出の程度はケニア等と比較すると格段に低い。

#### (2) Teach For All（国際大学卒業生）

面談者：Dr. Tarek CHEHIDI（タレク・チェヒディ博士）

- ・ 国際大学（新潟県）卒業生であるチェヒディ博士はアフリカ、中東、アジアでの教育分野で20年以上の経験を有する。チュニジア教育省などの組織に勤務し、2002年から2011年まで大臣のアドバイザーを務める。上智大学で地域研究の博士号を取得。

#### 概要

- ・ チュニジアは、エンジニアなどの人材レベルが高いとは言われているが、まだまだ国際水準と比較すると高くない。
- ・ 修士課程や博士課程のような学位取得を目的にする学習も良いが、今運営し

ている教育ベンチャーでは、学位取得を目的にするのではなく、学生や社会人に対して、超短期集中型のエンジニアリング教育をしている。

- ・ ビジネスモデルとしては、学生からエンジニアリング講座費用を徴収するのではなく、欧州企業も含めた企業に紹介することで企業からお金をもらっている。チュニジアから優秀なエンジニアを育て、国内だけでは十分でない雇用環境に風穴を開けていきたい。

### (3) AfricInvest (チュニジア初のパンアフリカ投資ファンド)

面談者：Mr. Aziz Mebarek, Founding Partner

Mrs. Ann Wyman, Director

Mr. Rafik Mzah, Chief Legal Officer 他1名

- ・ AfricInvest は、1990 年代初頭に設立された投資・金融サービス会社。アフリカ大陸で最も経験豊富なプライベートエクイティ投資会社の 1 社。AfricInvest は、アフリカに特化した投資チームを持ち、11 のオフィスに 90 人以上のプロフェッショナルを擁す。
- ・ AfricInvest は 21 のファンドで 19 億米ドルを調達、欧米の大手開発金融機関を含む国内外の投資家から長期にわたる強力な支援を受ける。
- ・ African Venture Capital Association (AVCA)、Middle East North Africa Private Equity Association (MENAPEA)、Euromed Capital Forum を共同設立し、この地域のプライベートエクイティ業界を積極的に促進している。
- ・ 設立以来、アフリカ 25 カ国において、様々な高成長分野の 170 社以上に投資し、アフリカ全域に質の高い経営者の幅広いネットワークを維持し、金融サービス、アグリビジネス、消費財／小売、教育、ヘルスケアなどの主要成長産業における幅広い専門知識を提供している。

#### 概要

- ・ 現在はアフリカに特化した 4 つのファンドを運営。イノベーションに着目したファンド、グロースに特化したファンド、シードファンド、ドイツ政府金融機関と連携して組成しているファンドもある。
- ・ 1 つは中東ファンドと組成した PIPEs ファンド。こちらのファンドはアフリカ特化ファンドではない。

### (4) チュニジア日本商工会議所

面談者：ハイディ・ベンアベス チュニジア日本商工会議所 会頭 他

- ・ 2014 年 12 月 4 日、チュニジアと日本の民間セクターの活動を促進するため、チュニジア・日本商工会議所 (CCITJ) が設立された。CCITJ は、ICT、再生可能エネルギー、海洋養殖、健康などの高付加価値分野への投資を、Win-Win

の関係で促進することを目指す。CCITJの事業戦略は、これらの分野におけるノウハウの移転を確実にいき、チュニジアの技術向上に貢献するとともに、同地域における日本のノウハウの普及を目指している。

#### 概要

- ・ ジェトロと連携して、チュニジアのスタートアップ企業や中堅企業 35 社を資料にまとめている。
- ・ スタートアップ法は 2019 年に現段階で第一弾が可決されているが、今後第二弾が可決される。よりスタートアップや VC にとってのメリットを見出しやすくなる。
- ・ 今回を機に経済同友会とも交流を続けていきたい。

#### (5) アフリカ連合開発庁 (AUDA-NEPAD)

面談者：ナルドス・ベケレ・トマス AUDA-NEPAD CEO

- ・ ナルドス・ベケレ・トマス長官は、2022 年 5 月に AUDA-NEPAD 長官に就任。
- ・ マヤキ前長官とは、直近では、2 回オンラインにて会合を開催し、コロナ後のアフリカ開発のあり方について議論してきた。
- ・ コロナによる物流の途絶などにより、医療資機材を輸入に依存するアフリカは孤立が顕著となる。その解消のため、JICA と AUDA-NEPAD は連携し「Home Grown Solutions (HGS) アクセラレータープログラム」を開始し、アフリカ発の製品やサービスで、保健医療分野の課題解決を目指す現地企業をサポートとする取り組みを行っている。

#### 概要

- ・ AUDA-NEPAD は、技術、R&D、ナレッジマネジメント、データ分析等、革新的なインキュベーションプログラムを様々な領域で提供している。
- ・ アフリカの事業パートナーとステークホルダーが効率的に経営資源を提供し合えるよう、連携促進を図っている。
- ・ 11 月上旬に来日を予定しており、その際には改めて面談を実施したい。

#### (6) 国連開発計画 (UNDP)

面談者：アフナ・エザコンワ UNDP 総裁補 兼 アフリカ局長他

- ・ 2019 年 8 月の TICAD7 の際に、アフリカにおける持続可能な開発目標 (SDGs) の達成を目指し、日本企業の更なる成長を支援するための体制を構築するため、業務協力覚書を締結している。本年 5 月には、UNDP、アフリカ開発銀行、AUDA-NEPAD と本会の協力により、「日本とアフリカで輝く女性起業家交流会」を実施している。
- ・ UNDP は、開発途上国の経済、社会的発展のために、プロジェクト策定や管理を主に行う。その中には、資金や技術援助を与えるための調査も含まれ、所

得向上や健康改善、さらには民主的な政治、環境問題とエネルギーなど、あらゆる開発に関するプロジェクトを扱う。

#### 概要

- ・ UNDP では現在 1,000 億円程度のベンチャー投資ファンド設立を検討中。
- ・ 本年 SDGs インパクト評価基準を作成。SDG インパクト基準は、サステナビリティ、SDGs、インパクトを実現するマネジメントを、事業や投資の意思決定の中核に据える、マネジメントのための世界的な独立基準。サステナビリティと SDGs の達成に向けた民間セクターの貢献を加速する目的で立ち上げられた UNDP の重要な取り組み、「SDG インパクト」の一環として策定。

#### (6) アフリカ開発銀行 (AfDB)

面談者：アキンウミ・A アデシナ総裁

野元 隆章 理事

花尻 卓 アジア代表事務所長

モハメド・エルアジジ チュニス事務所長

- ・ アフリカで多くの国が独立した 1964 年にアフリカの経済開発促進を目的に発足した融資機関で各国の債務危機の救済と運輸・通信・衛生・教育・経済・社会インフラの整備も行う。本部はコートジボワールのアビジャン。

#### 概要

- ・ 経済同友会が検討しているインパクトファンドについては是非協力していきたい。AfDB は VC 投資も行っているが、人材育成にも力を入れている。
- ・ 今後ファンドに対する LP 投資を含めて、AfDB としてどのようなコミットメントが可能なのかを検討していきたい。
- ・ アデシナ総裁より 11 月にコートジボワール・アビジャンで行われる投資会議 (Africa Investment Forum) に本会へ参加要請があった。

#### (7) Maroc Numeric Fund (モロッコ)

面談者：・ Mrs. Dounia Boumehdi, Managing Director

・ Mr. Omar El Hyani, Investment Director

- ・ 同ファンドは 2010 年にモロッコの国策の一貫で立ち上げられたファンド。当該国策は産業貿易新技術省によって練られたもの。モロッコのテック系スタートアップに注力するモロッコ初のベンチャーキャピタル。1 号は 10 億円でスタート。面談を行ったカサブランカテクノパークは、官民連携で作られたアクセラレーションハブ。現在、モロッコには、このようなアクセラレーションハブが同ハブを含め 4 つある。

## 概要

- ・ 政府のイニシアティブで始まったのが当該ファンドであり、官はお金は出すが口は出さないスタイルで運営されている。
- ・ 10 億円のファンドサイズである 1 号ファンドで、モロッコに一定数のベンチャー企業のポテンシャルがあることが確認されたため、2 号ファンドも組成中。
- ・ 2 号ファンドは、モロッコのスタートアップに投資先を限定せず、他アフリカ企業やヨーロッパ諸国／中東諸国も投資先に含める構え。
- ・ モロッコ以外の国に投資する場合（特にヨーロッパ諸国に投資する場合は）現地の投資家と共同投資を行っている。

### （8）JICA モロッコ事務所

面談者：伊藤 隆司 JICA モロッコ事務所 所長

安田 真弥 JICA モロッコ事務所 事業班長

## 概要

- ・ TICAD8 にモロッコが不参加を表明したことについての経緯について確認を行った。
- ・ アフリカ投資機構（仮称）の投資先に関して、ケニア、ナイジェリア、南ア、エジプトは既に欧米の投資家も参入しており、相当競争が激しい。一方で、チュニジアやモロッコはまだ欧米勢の参画も進んでおらず、最初に投資を始める場所としては期待できるのではないかとの提案がある。
- ・ カサブランカやラバトでは路面電車が走っているが、いずれもフランスから導入したもの。TGV（高速鉄道）も導入されている。

### （9）在モロッコ日本大使館

面談者：倉光 秀彰 駐モロッコ王国日本国 大使

広瀬 真一 駐モロッコ王国日本大使館 参事官

山口 匠 駐モロッコ王国日本大使館 専門調査員

本田 雅英 JETRO ラバト事務所所長

## 概要

- ・ モロッコ国王には、政治、軍事、宗教上の実権がある一方で、その下部にある政権は、総選挙で与野党が大きく変わることもある。
- ・ 失業問題からスタートアップも含めた雇用問題解決方法の検討が望まれている。
- ・ モロッコは地政学的に、欧州、アフリカ、中東の出入り口となる要衝であり、中国、米国、EU と密接に連携しているが、サブサハラほど中国との繋がりは進んでいない。

- ・ 日本の皇室とモロッコ王室は、伝統的な友好関係を基礎として良好な関係を構築している。
- ・ 外資系企業誘致に積極的であり、マグレブ 3 カ国の中では最も直接投資流入がある。FTA も 56 カ国と締結済み。
- ・ 日産ルノーのアフリカ最大の生産拠点があり、BOEING、BYD 等が進出。
- ・ 日本からは 69 社が進出（日・モロッコ投資協定/租税条約の発効）

## 5. まとめ

コロナ禍により各種制限があるなかでの TICAD8 開催であったが、50 社を超える日本企業の経営トップが参加し、アフリカの首脳・閣僚、企業経営者などと対面で対話をする機会を持てたことは、今後の日本企業のアフリカ展開にとって、貴重な機会になったと考えている。特に、今回、中小企業やスタートアップを含めた民間企業のなかで、中長期の視点でアフリカに関心を持ち、事業展開を拡大しようとする企業が少しずつ増えていると感じた。重要なのは、次の 2025 年の TICAD9 に向けて、こうした機運を高めていくことである。

一方で、TICAD8 に参加したアフリカ諸国の首脳や閣僚から、日本政府が TICAD ごとに打ち出す支援・投資額の数字に対するフォローアップがないことに対する不満が漏れ聞こえる。チュニスでは、岸田総理から、今後 3 年間で官民総額 300 億ドル規模の資金を投入することが表明されている。日本がアフリカ諸国からの信頼を得て、アフリカと「共に成長するパートナー」として持続可能な発展に貢献し、日本もともに成長していくためには、数字に対するコミットメントと説明責任を果たしていくことが極めて大切である。

前述のとおり、本会のアフリカ投資機構の構想について、岸田総理から、全体会合において 100 億円超のスタートアップ向け投資ファンドの計画を政府としても歓迎すると言及があった。そして、「TICAD8 チュニス宣言」において、本会のインパクトファンドの創設についての謝意が表明されている。本構想では、203 年春頃にファンドを立ち上げて運用を開始し、2024 年春には 100~150 億円規模の資金運用を目指している。本会としてもアフリカ諸国や国際機関から示された本構想に対する期待に応えるため、2025 年の TICAD9 に向けて、インパクトファンドを確実に設立し、投資実績を示していきたい。

## 6. ミッション概要資料

### (1) 日程

#### 経済同友会 TICAD8 ミッション日程

日程	内容	備考
8月24日(水)	チュニス着	
8月25日(木)	10:30-11:30 JICA チュニア事務所訪問 14:00-15:00 国際大学卒業生との面談 @Carthage シェラトン・チュニス	Rue de la Feuille d'Erable, Immeuble « Le Palmier du Lac » 5ème étage, 1053, Les Berges du Lac 2, Tunis
8月26日(金)	8:00-9:00 Africinvest 朝食会 @ Amilcar1, シェラトン・チュニス 9:15-9:45 チュニア日本商工会議所 (TJCCI) @Marhaba Room シェラトン・チュニス 10:30-11:15 AUDA-NEPAD @ Amilcar1, シェラトン・チュニス 14:30-17:30 ①チュニア・日本経済ミーティング (UTICA 主催-外国投資振興庁共催) @Cité de la Culture 14:00-17:45 ②第3回日・アフリカ官民インフラ会議 主催:チュニア設備・住宅省、共催:国交省 @Cité de la Culture 14:00-16:00 ③チュニアスタートアップ企業訪問 14:00-14:30 The Dot tour & presentation 14:30-15:00 Meet Houeida Anouar - Impact partners 15:00-15:30 Meet Faten Aissi - Flat6Labs 15:30-16:00 Meet with Emel Saidane - Betacube 19:00-20:30 エザコンワ UNDP アフリカ局長との夕食会 @Dar El JELDI	5-10, Rue Dar El Jeld, Tunis 1006, Tunis Governorate 1006

<p>8月27日(土)</p> <p>10:35-12:35</p> <p>13:30-14:00</p> <p>15:00-18:00</p> <p>15:00-15:20</p> <p>15:20-16:00</p> <p>16:00-17:10</p> <p>17:10-17:55</p> <p>17:55-18:00</p>	<p>TICAD8 全体会合 1 (経済) ※岩井委員長登壇</p> <p>アデシナ AfDB 総裁との面談 @Hotel Laico</p> <p>TICAD8 ビジネスフォーラム 1 日目 @Hotel Laico/Oya</p> <p>歓迎・開会挨拶、基調講演</p> <p>MOU セレモニー</p> <p>来賓挨拶(岩井委員長登壇)</p> <p>日本企業からのメッセージ(奥村社長登壇)</p> <p>閉会</p>	
<p>8月28日(日)</p> <p>9:00-9:05</p> <p>9:05-9:20</p> <p>9:20-10:35</p> <p>10:50-12:05</p> <p>12:05-1:30</p> <p>1:30-3:00</p> <p>3:15-4:30</p> <p>4:45-6:00</p> <p>6:00-6:05</p>	<p>TICAD8 ビジネスフォーラム 2 日目</p> <p>開会</p> <p>AfDB セッション</p> <p>セッション1 (洪澤副委員長登壇)</p> <p>セッション2</p> <p>ランチ</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>セッション3 (大島日本信号常務登壇)</p> <p>セッション4</p> <p>閉会</p>	
<p>8月29日(月)</p> <p>9:00-16:00</p> <p>18:05</p> <p>21:15</p>	<p>視察</p> <p>カルタゴ遺跡(ピュルサの丘、アントニヌス 共同浴場、トフェ) → シディ・ブ・サイド</p> <p>チュニス(チュニジア)発(AT573)</p> <p>カサブランカ(モロッコ)着</p>	

<p>8月30日(火)</p> <p>10:30-11:30</p> <p>15:00-16:00</p> <p>17:30-</p> <p>18:30-20:30</p>	<p>Maroc Numeric Fundとの面談 @Technopark Casablanca</p> <p>JICA モロッコ事務所</p> <p>在モロッコ日本大使・JETRO ラバト事務所 所長によるレク(在モロッコ日本大使館)</p> <p>夕食会(大使公邸)</p>	<p>Bd Damman, Casablanca, Morocco Tel +212 5 22 50 78 71</p> <p>74 Rue Oum Erabia, Rabat,</p>
<p>8月31日(水)</p>	<p>カサブランカ発</p>	
<p>9月1日(木) 夕刻</p>	<p>成田着</p>	

## (2) 参加者名簿

### <会員>

岩井睦雄	日本たばこ産業 取締役会長 (アフリカ PT 委員長)
奥村洋治	フジタ 取締役社長
井出達也	フジタ 取締役常務執行役員 (アフリカ PT 副委員長)
洪澤健	シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役 (アフリカ PT 副委員長)
小野傑	西村あさひ法律事務所 オブカウンセル (アフリカ PT 委員)

### <代理・随行>

大島秀夫	日本信号 取締役常務
齋藤祐介	日本信号 国際事業部 国際第二営業部 係長
隈元隆宏	日本たばこ産業 たばこ事業本部海外企画室 国際担当部長
清水友紀子	日本たばこ産業 たばこ事業本部海外企画室 国際担当次長
加藤慧	日本たばこ産業 たばこ事業本部海外企画室 国際担当 課長
水野友佳理	日本たばこ産業 たばこ事業本部海外企画室 国際担当 主任
石田康平	西村あさひ法律事務所 パートナー
佐藤哲	INCJ ベンチャー・グロース投資グループ マネージング・ ディレクター

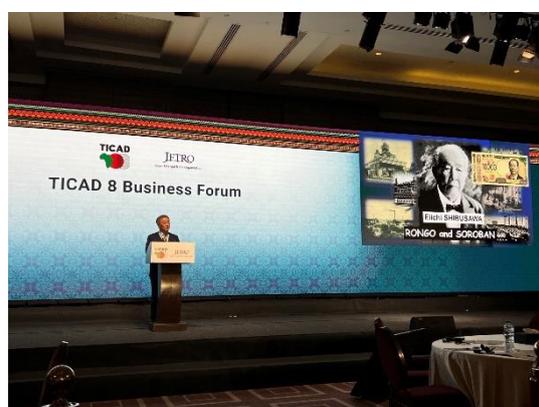
### <本会随行>

宮崎加津美	経済同友会 国際交流部 マネジャー
-------	-------------------

(3) 会議・面談の様子



岩井委員長（ビジネスフォーラム）



渋澤副委員長（ビジネスフォーラム）



奥村洋治 フジタ 取締役社長  
（ビジネスフォーラム）



ナジュラ・ブデン チュニジア首相、  
中谷経済産業副大臣



チュニジア日本商工会議所との面談



ベケレ・トマス アフリカ連合開発庁  
（AUDA-NEPAD）長官



アフナ・エザコンワ UNDP 総裁補 兼 ア  
フリカ局長



アキンウミ・A アデシナ アフリカ開  
発銀行 (AfDB) 総裁



JICA チュニジア事務所



Teach For All、タレク・チェヒディ  
博士 ((国際大学卒業生)



AfricInvest (チュニジア) との面談



Maroc Numeric Fund (モロッコ) と  
の面談



JICA モロッコ事務所



倉光秀彰駐モロッコ王国日本大使との面談